

上塚司氏より
厚く御禮

プロ町日會へ

過日逝去した上塚周平翁の病状を詳しく述べてお聞きいた。況且日本會員は對し周平翁の従弟に當るアマニア産業研究所長上塚司代議士は左の

元氣な姿の實物等相添へ送

拜候五月廿五日附御書面正

上塚周平翁狀態甚悪し五月

市に拜見仕候、然る後從兄

市に於て療養の結果極めて

良好の由て自筆の手紙に

持せんかと大に喜び居候

心の至りに存候、發病以來

既に長月を経過し且平素

の申程には無之候共多年の

勞苦と宿痾とに依り身体も

り來り小生此分なれば次

回渡泊の時までは健康を維

持せんかと大に喜び居候

候、就いては甚て御迷惑感

入候共此の後も何分の御事

の意を表し度如斯御座候

敬具

昭十年六月廿日 上塚司

因に發費元の後塵商會では小

味であつたといふ折紙づき

在留邦人左黨万能で賣つても

ひたいと

珈琲栽培禁止

更に延期

全國珈琲會議の一決議

珈琲栽培禁止

月例バイル開催

氣を吐くモソソ連

組合から警告があつた、御用

ド・クレス・ド・リオバ

職してたが不正行為あつた

ルドでも邦人に對し不正行為あつた

ため解雇せられた目下ソロ連サ

スなる者は元ノロエスバ

リスマス補作者中央組合に就

たが、先づたる事として守

めし各位の一方ならざる御

心の至りに存候、發病以來

未だ六十歳必ずしも老年の

申程には無之候共多年の

勞苦と宿痾とに依り身体も

り來り小生此分なれば次

かに病状を想ひ心痛不快

候、就いては甚て御迷惑感

入候共此の後も何分の御事

の意を表し度如斯御座候

敬具

昭十年六月廿日 上塚司

因に發費元の後塵商會では小

味であつたといふ折紙づき

在留邦人左黨万能で賣つても

ひたいと

珈琲栽培禁止

更に延期

全國珈琲會議の一決議

珈琲栽培禁止

月例バイル開催

氣を吐くモソソ連

組合から警告があつた、御用

ド・クレス・ド・リオバ

職してたが不正行為あつた

ルドでも邦人に對し不正行為あつた

ため解雇せられた目下ソロ連サ

スなる者は元ノロエスバ

リスマス補作者中央組合に就

たが、先づたる事として守

めし各位の一方ならざる御

心の至りに存候、發病以來

未だ六十歳必ずしも老年の

申程には無之候共多年の

勞苦と宿痾とに依り身体も

り來り小生此分なれば次

かに病状を想ひ心痛不快

候、就いては甚て御迷惑感

入候共此の後も何分の御事

の意を表し度如斯御座候

敬具

昭十年六月廿日 上塚司

因に發費元の後塵商會では小

味であつたといふ折紙づき

在留邦人左黨万能で賣つても

ひたいと

珈琲栽培禁止

更に延期

全國珈琲會議の一決議

珈琲栽培禁止

月例バイル開催

氣を吐くモソソ連

組合から警告があつた、御用

ド・クレス・ド・リオバ

職してたが不正行為あつた

ルドでも邦人に對し不正行為あつた

ため解雇せられた目下ソロ連サ

スなる者は元ノロエスバ

リスマス補作者中央組合に就

たが、先づたる事として守

めし各位の一方ならざる御

心の至りに存候、發病以來

未だ六十歳必ずしも老年の

申程には無之候共多年の

勞苦と宿痾とに依り身体も

り來り小生此分なれば次

かに病状を想ひ心痛不快

候、就いては甚て御迷惑感

入候共此の後も何分の御事

の意を表し度如斯御座候

敬具

昭十年六月廿日 上塚司

因に發費元の後塵商會では小

味であつたといふ折紙づき

在留邦人左黨万能で賣つても

ひたいと

珈琲栽培禁止

更に延期

全國珈琲會議の一決議

珈琲栽培禁止

月例バイル開催

氣を吐くモソソ連

組合から警告があつた、御用

ド・クレス・ド・リオバ

職してたが不正行為あつた

ルドでも邦人に對し不正行為あつた

ため解雇せられた目下ソロ連サ

スなる者は元ノロエスバ

リスマス補作者中央組合に就

たが、先づたる事として守

めし各位の一方ならざる御

心の至りに存候、發病以來

未だ六十歳必ずしも老年の

申程には無之候共多年の

勞苦と宿痾とに依り身体も

り來り小生此分なれば次

かに病状を想ひ心痛不快

候、就いては甚て御迷惑感

入候共此の後も何分の御事

の意を表し度如斯御座候

敬具

昭十年六月廿日 上塚司

因に發費元の後塵商會では小

味であつたといふ折紙づき

在留邦人左黨万能で賣つても

ひたいと

珈琲栽培禁止

更に延期

全國珈琲會議の一決議

珈琲栽培禁止

月例バイル開催

氣を吐くモソソ連

組合から警告があつた、御用

ド・クレス・ド・リオバ

職してたが不正行為あつた

ルドでも邦人に對し不正行為あつた

ため解雇せられた目下ソロ連サ

スなる者は元ノロエスバ

リスマス補作者中央組合に就

たが、先づたる事として守

めし各位の一方ならざる御

心の至りに存候、發病以來

未だ六十歳必ずしも老年の

申程には無之候共多年の

勞苦と宿痾とに依り身体も

り來り小生此分なれば次

かに病状を想ひ心痛不快

候、就いては甚て御迷惑感

入候共此の後も何分の御事

の意を表し度如斯御座候

敬具

昭十年六月廿日 上塚司

因に發費元の後塵商會では小

味であつたといふ折紙づき

